

10月31日(水曜日)

**10月31日(水曜日)行動計画/実績** 正味歩行時間…5:55/7:06(1.20倍)  
7:00/6:51 持経ノ宿発 0:55/0:58⇒8:15/7:52 平治ノ宿 0:30/0:44⇒9:00/8:50 転法輪岳 0:45/0:43⇒  
10:00/9:43 俱利伽羅岳 1:30/1:43⇒12:00/12:05 行仙岳 0:30/0:28⇒13:00/13:09 行仙宿小屋 1:  
20/1:58⇒15:00/15:42 笠捨山 0:25/0:27⇒15:30/16:07 葛川辻着泊

6:51 持経ノ宿発(0:55/0:58⇒平治ノ宿) 玉置神社まで 21 kmの表示がある。



6:51 持経ノ宿



6:51 持経ノ宿標識

7:01 持経千年桜 思わず見上げて写真撮影。



7:01 持経千年桜不動尊

7:41 中又尾根分岐(両又分岐)



7:41 中又尾根分岐(両又分岐)標識



7:01 持経千年桜

7:49 平治ノ宿(へいじのしゆく、第 21 扉)着(0:30/0:44⇒転法輪岳)7:52 発 昨夜宿泊した持経ノ宿と同じような宿内部で、電気設備(写真右端)も備わり、きれいに片付いている。



7:49 平治ノ宿

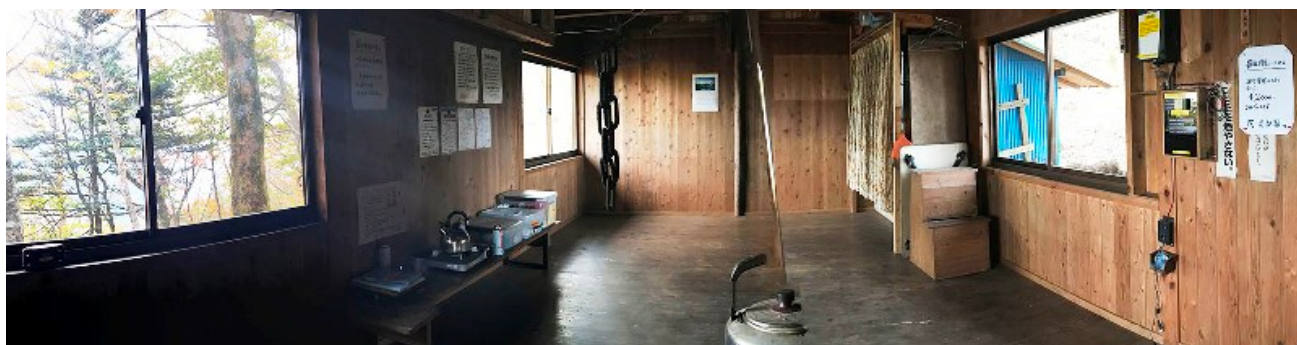
#### 平治ノ宿

収容人数 10 人。 囲炉裏・ストーブ設置。 宿泊用毛布あり。

#### 水場 8 分

この地に、三井寺が 1956 年(S31 年)に三間四方の小屋を建て、新宮山彦ぐる一ふが 1976 年(S51)年修復し、1991 年(H3 年)7 月に新築した。敷地には、西行の歌碑、今西先生来山記念植樹の桜(S53.3)がある。

屋内には、「修験之道」三井寺長吏の扁額がある



7:49 平治ノ宿内部パノラマ

8:36 転法輪岳(てんぼうりんだけ)着 8:50 発(0:45/0:43⇒俱利伽羅岳) 転法輪とは「仏の教法を説くこと」だが、この稜線前後は仏教用語からの山名が多いようだ。 交信できたので、LINE で報告。 交信できる場所ではポケモン GO や、スーパー地形の地図取得など結構忙しい。



8:36 転法輪岳



8:41 転法輪岳



9:40 俱利伽羅岳

9:33 俱利伽羅岳(くりからだけ)着 9:43 発(1:30/1:48⇒行仙岳) 「俱利伽羅とはサンスクリット語の「kulihah」に由来する。「福德円満の黒い龍」を意味し、剣に黒龍が巻き付いた本尊の名前から俱利伽羅山と呼ばれるようになった。」とある。 この山も黒龍が巻き付いたイメージなのだろうか？



9:39 俱利伽羅岳付近の不明ルート表示



9:42 俱利伽羅岳からのパノラマ展望

10:27 ピーク 1170m 着 10:39 発

11:10 怒田の宿跡(めたのしゆく、第 20 靡)



11:10 怒田の宿跡



11:23 行仙岳への登り

11:32 行仙岳(ぎょうせんだけ、第 19 靡)着 12:05 発(0:30/0:28⇒行仙宿小屋)



11:34 行仙岳



12:23 白谷トンネル東口分岐



13:07 アメリカ人登山者

12:23 白谷トンネル東口分岐

12:43 行仙宿小屋着 13:09 発(1:20/1:58⇒笠捨山)

行仙宿小屋到着前に後ろから登山者が追い付いてきた。今日初めて人に会った。行仙宿小屋で一緒に休憩。水場は 10 分下った所にあるようだが、いくつかのポリタンクに水が蓄えられていた。一番新しい 10 月 28 日付けのポリタンクの水を頂いた。彼は喉が渇いていたようで、躊躇なく飲んだ。松葉が中に入っていて、その香りがするとのことだった。私も空の 350 cc 容器に水を入れたが、他にも新鮮な水があるのでこの水は、数日経過しているので念のため煮沸後飲むことにした。

休みながら話をした。片言の日本語だが、会話はできた。時折単語を思い起こそうとしている様子ではなしてくれなかった。彼は新宮に 3 年間住んでいる、アメリカ人とのこと。1989 年に大学生だったとのことなので、50 歳前後のようだ。毎日歩けるところまで歩いて、タープで寝ているとのことだ。大きめのザックの後ろに青いビニールシートのようなものを付けていた。日本人の心に興味があり、新宮市では空手をやっているとのこと。撮影をお願いしたら撮影させてくれた。小屋の前で分れた。

行仙宿 by 新宮山彦グループ HP 収容人数 40 人。囲炉裏・カマド・炊事場設置。宿泊用毛布あり。  
 水場 10 分 この小屋は、新宮山彦グループが浄財と奉仕活動により 1990 年(H2 年)6 月に新築。隣接した敷地には、管理棟(会員用)、行者堂(役ノ行者・実利行者を祀る)がある。



13:10 行仙宿全景



13:10 行仙宿標識



13:20 笠捨山登り



13:39 笠捨越付近からの展望\_\_パノラマ



13:45 倒木



14:20 展望(地藏岳方面?)



15:03 笠捨山へ 100m 標識

15:08 笠捨山(かさすてやま、第 18 摩)着 15:42 発(0:25/0:27⇒葛川辻)

このピークも交信可能。下ると圏外になるので今日最後の LINE 報告し、天気や地形などの情報取得。後は下るだけで、今日の宿泊地なので、しばらく交信などで時間を使う。変わった石碑があった。四方に呪いのような文字石が配置されていた。気になる。

#### 祭祀のこと

この方祭るのは、真ん中に神の意志鎮め、その後にひもろぎ、前の左右にひもろぎ、それが「あ」と「や」と「わ」ぞ。その後に三つ七五三とひもろぎ立てさすぞ。少し離れて四隅にイウエオの言霊石置いてくれよ。鳥居も注連もいらぬと申してあろがな、この事そ>この神示をどう解釈するのかということになる訳ですが、私はこう語る神の言葉を、ユダヤの紋章の上昇型の善性ム(△)にアワヤを当て、下降型ウ(▽)には悪性の七五三を配置致しました。

…(当日最終頁に全文)



15:11 笠捨山山頂



15:35 笠捨山石碑全景



15:35 笠捨山石碑碑文



15:35 笠捨山祭祀



15:36 笠捨山石碑表・雷礎

碑文:意富加牟豆美 神様 奉迎  
 世の元の元に鎮まります出雲の神神様が、  
 最初に我が国の礎を築かれた神様の系譜で  
 あると申します(意富加牟豆美 神様)とは木  
 ノ花咲耶姫様の親神様とも寸断される。  
 出雲神に対し、穂高見ノ命様としても後年長  
 野の穂高神社に崇祭された御方様にあるよう  
 です。この道祖神様は御偉業力にも民族和  
 合に座す神様として永く贅え続けられてきて  
 いる我が国の文化遺産に他なりません。…  
 (次頁に全文)



15:33 笠捨山からの展望\_パノラマ

16:07 葛川辻(1,138m)着 17:00 発 17:10 水場(1,037m)着 17:38 発葛川辻着

トムラウシ山縦走用にこの夏に購入した一人用テントの初使用。地面が柔らかいので、ペグの効きは悪いが無風に近いので、問題無とした。グランドシートやフライシートの装着順で、若干戸惑う。設営後、地図の表示では近いと思った水場へ北側の斜面を下る。現地では水場10分の表示。

最初はトラバース気味に不安定な足場を気にしながら下る。途中から急斜面の下りで、古いロープが固定してある。崖に落ちるような足場の悪い道なき道だ。固定ロープだけが頼りだ。ここで落ちたら行方不明者一人になるだろう。一部のロープは古く、毛羽立っていて握るとチクチク痛い。急いだが、水場まで10分。

水の出は少ないが、美味しい水だ。数メートル上部に多く流れている場所があるようだが、登ると帰りに苦労しそうなので、少ない水の出で我慢。約1L汲むのに、10分近く要した。暗くなってきたので、ヘッドライトを点灯。帰路の急斜面が気になる。帰路はロープだけをたよりにルート確認。登りは20分を要したが、何とか無事帰りついた。すっかり暗くなった。後でGPSデータを確認すると水場までの標高差は100mだった。

テントの中で、早速食事。行仙宿でもらった水を沸かす。コンロを点けると、小さいテントは、すぐに暑いくらいに温まる。ベンチュレーションに気を使いながらガスコンロを使った。乾燥食なので、短時間で調理。食後コーヒーを飲みたかったが、すでに昨夜使い切り。お茶も含め持ってきた量が少なすぎた。8時前に就寝。



16:07 笠捨山巻道分岐



16:09 葛川辻標識



16:59 葛川辻にテント設営

碑文:

「意富加牟豆美 神様 奉迎

世の元の元に鎮まります出雲の神神様が、最初に我が国の礎を築かれた神様の系譜であると申します(意富加牟豆美 神様)とは木ノ花咲耶姫様の親神様とも寸断される。

出雲神に対し、穂高見ノ命様としても後年長野の穂高神社に崇祭された御方様にあるようです。

この道祖神様は御偉業力にも民族和合に座す神様として永く贅え続けられてきている我が国の文化遺産に他なりません。

今年その御祭神様が世直しのため新たに(宇杵宇ノ神)となられ御活動なされるということです。

平成九年六月十日 御鎮座」

注釈

意富加牟豆美:オオカムツミは、日本神話に登場する桃であり神。『古事記』では意富加牟豆美命(おおかむづみのみこと)と表記する。「大いなる神のミ(霊威)」の意味であるが、大いなる神の実と解釈し、「大神実命」と表記する場合もある<sup>[1]</sup>。『日本書紀』にも登場するが、名前は記されていない。

木ノ花咲耶姫:コノハナノサクヤビメ(ヒメ)は、日本神話に登場する女神。『古事記』では木花之佐久夜毘売、『日本書紀』では木花開耶姫と表記する。コノハナサクヤビメ、コノハナサクヤヒメ、または単にサクヤビメと呼ばれることもある。『古事記』では神阿多都比売(カムアタツヒメ)、『日本書紀』では鹿葦津姫または葦津姫(カヤツヒメ)が本名で、コノハナノサクヤビメは別名としている。

天照大神(アマテラス)の孫であるニニギノミコト(瓊瓊杵尊、邇邇芸命)の妻。オオヤマツミ(大山積神、大山津見神、大山祇神)の娘で、姉にイワナガヒメ(石長比売、磐長姫)がいる。ニニギノミコトの妻として、ホデリ(海幸彦)・ホスセリ・ホオリ(山幸彦)を生んだ。

祭祀のこと

この方祭るのは、真ん中に神の意志鎮め、その後ひもろぎ、前の左右にひもろぎ、それが「あ」と「や」と「わ」ぞ。その後三つ七五三とひもろぎ立てさすぞ。少し離れて四隅にイウエオの言霊石置いてくれよ。鳥居も注連もいらぬと申してあるがな、この事ぞ>この神示をどう解釈するのかということになる訳ですが、私はこう語る神の言葉を、ユダヤの紋章の上昇型の善性ム(△)にアワヤを当て、下降型ウ(▽)には悪性の七五三を配置致しました。

十津川村からの許可の都合で道祖神として祭祀する。

御別称には、竜田大社、伊勢神宮風ノ宮、熊野玉置神社、塞(賽)ノ神、山ノ神等有、修験道ご開祖の役ノ行者尊の遠祖と覚ゆ。

三重県 大宮町 和歌山…(判読不可)

転法輪:

仏が教えを説くこと。説法。法輪は仏の教えを転輪王の武器である輪宝になぞらえたもので、転は説くこと。

俱利伽羅:

《(梵)Kulikaの音写》「俱利伽羅竜王」の略。

俱利伽羅竜王:

不動明王の化身としての竜王。形像は、岩上で火炎に包まれた黒竜が剣に巻きついて、それをのもうとするさまに表される。剣は外道(げどう)の智、竜は不動明王の智を表したものである。俱利伽羅明王。俱利伽羅不動明王。俱利伽羅。

行仙:

?-1278 鎌倉時代の僧。静道について密教をまなぶ。のち念仏行者となって上野(こうずけ)(群馬県)山上寺で念仏に専心した。弘安(こうあん)元年死去。著作に「念仏往生伝」。